

『イギリスにおける労働者階級の状態』に学ぶ

第5回

関東ブロック

競争・アイルランド人の移住

二つの競争がある

司会：前回は、「19世紀の都市労働者の悲惨な生活実態と貧民街の状況について学習してきましたが、今回は、「競争」と「アイルランド人の移住」について学びます。

先ず、「競争」ですが、この章には「労働者間の競争」と「ブルジョア相互の競争」について書かれています。資本家相互の競争については多くのページが割かれています。今回の学習会では、なぜ、労働者間の競争が起こるのか、その経緯を重点的に掘り下げて討論していきたいと思えます。

労働者間の競争

小泉：「ブルジョアが互いに競争するように労働者も互いに競争する」とありますが、ブルジョアの競争とは違い、労働者は自らの意志で競争しているわけではありません。賃金の高い労働者から低賃金労働者へと、取って代わるように仕向けられています。労働者にとっては最悪なことです。常にブルジョアの意のままになっているのが現状です。労働組合によってこのような競争を無くそうとしますが、ブルジョアに潰されてしまいます。では、何故、このようなことが起こるのか。それは、労働者の生活手段がブルジョアの手中にあるからです。プロレタリアートは労働力と引き換えに賃金を得て生活手段を取得しますが、生産手段をもたない労働者にとっては、提示された条件に同意するか餓死するか二者択一なのです。

しかし、労働者の競争には限界があります。それは生活に必要な賃金でなければならぬということです。生活に必要な賃金とは、一定の文明度と子どもを育て家族を養うことのできる賃金です。そして家族を養う度合いによって賃金は平均化され、いくらかまし

◆みんなの学習講座

【社会的要因による競争】

- ①年齢階級(年代や世代間)による競争
- ②男女による競争
- ③雇用形態による競争
*正規と非正規や個人事業主等
(パート・アルバイトや契約社員等)
- ④業種(産業別)・職種による競争
- ⑤地域による競争
(首都圏と地方、密集地と過疎地等)
- ⑥失業者や外国人労働者などとの賃上げ競争

【個人的要因による競争】

- ①競争する要素(企業から要求能力)
 - ・業務に関する専門知識
 - ・創造力・構想力
 - ・業務の熟練度
 - ・指導力(リーダーシップ)
 - ・実行力(PDCA)
 - ・自己啓発
- ②人事考課
 - ・成績考課、・情意考課、
 - ・能力効果、・人間性効果、

な賃金が最低限度とされたのです。当時のイギリスの労働者の状態は悲惨なものでした。人間扱いされずに、単なる「人手」として扱われ、人間性を奪い取られていました。

労働者は競争させられている

司会：労働者は自らの意志で競争しているわけではないという説明がありました。質問・補足等をお願いします。

影山：この当時、労働組合はあったのですか。

小泉：1979年に団結禁止法が制定されるなど弾圧されてきましたが、1982年に廃止され、労働者団結法が制定されました。この法律によって労働組合の結成が公認されたようです。司会：では、今、職場でどのような競争が行われているのか、資本金階級が作り上げた体系についての説明をお願いします。

小泉：労働者間の競争は、全て賃金等に関する格差・差別によって起こっていると考えます。これらの競争は社会的要因と個人的要因に分けられますが何れも知らずの内に競争させられています。詳細は「上表」を参照して下さい。

向山：「上表」の項目は、何を参考にし

たのですか。

小泉：…いうならば統計資料の調査項目を列記しただけです。

司会：分かりにくいですね。具体例を出し合う中で理解を深めましょう。

小泉：どこに賃金格差や競争があるかを調べるのが重要だと思います。

向山：昨年9月発表の民間給与実態調査では、男性の54.5万円に対し女性は30.2万円(男性の54%)、正規の50.8万円に対し非正規は19.7万円(正規の39%)と驚きの数字です。

小谷田：昨年の調査結果によると、雇用者数603.6万人に対し、労働組合員数は99.9万人(組織率16.5%)で民間企業のみで組織率は15.8%となっています。また、全労協、全労連あわせても僅か約80万人です。闘わない労働組合の組合員が殆どです。

影山：非正規労働者は何時頃から増えたのですか。

小泉：1950年代から高度経済成長

期にかけての出稼ぎや臨時工、1960年代後半以降に増加した女性のパート雇用、1980年代後半以降に派遣労働者や有期雇用者が増加してきました。1985年と2010年との比較では、雇用者数が3999万人から5111万人へ1112万人増加しました。その内訳は、非正規が655万人から1756万人へ1101万人増となった一方で、正規は僅か12万人増に留まっています。

司会：では、皆さんが体験した労働者間の競争について、先輩・現役労働者から聞いた話でも結構ですから報告して下さい。

小林：電車の運転士をしていたのですが、低賃金だったのでダイヤ乗務した後、時間外として他のダイヤに乗務する「再乗」を率先して行っていました。「再乗」希望者が多く競争となり、「おかしい、不公平だ」「再乗に頼らない賃金を!」「自由にやらせろ」と

いった声が上がりました。労働組合が機能していない状況ではとてつもなく難しい課題だと思います。

小谷田：疲労などによる安全運行について、議論にはならなかったのですか。小林：個々人の家庭の事情もあり、あまり議論にならなかったですね。

向山：人事考課制度が大幅に変更され賞与の場合、会社が支払う「全社員の月額賃金×月数」を原資とし、50項目におよぶ人事考課の評価点でこの原資を奪い合う制度になりました。半分以下の者もいれば3倍の者もいる。怒りは会社には向けられず、社員同士のいがみ合いとなり「なぜ、あの人が」という声が上がったのを覚えています。司会：現代社会では、労働者間の競争によって引き起こされる商品の品質や安全性、また過労死などが問題となっています。個々の事情と一人ひとりの不満・要求を出し合い、それを資本に突きつけ競争をなくすことが求められ

ています。また、年齢・性別や業種などによる格差について、「あつて当たり前」という風潮があります。これを変えるためにも資本と闘う労働組合を再建しなければなりません。

ブルジョア相互の競争

司会：資本主義社会は、ブルジョア相互の競争に始まり恐慌が起こり、やがて好況を迎える周期で何度となく繰り返されてきました。その周期は、世界貿易の幼年期の1815年から1847年にはほぼ5年おきに、初めての世界恐慌となった1857年から1957年までは10年おきに起きています。この恐慌を踏まえ、ブルジョア相互の競争について説明をお願いします。

小谷田：ブルジョアは商業や工業によってしか資本を増やすことが出来ず、資本を増やすには労働者を必要とします。ブルジョアと労働者の関係は、

①労働者が不足気味になると労働者

◆みんなの学習講座

間の競争はなくなり、ブルジョア階級の資本家から労働者を奪い取るため、賃金を上昇させます。しかし、労働者も資本家も互いに競争し合う理由がないとき、労働者の平均的賃金は欲求と文明度によって決まります。一方、ドイツの労働者の実態は、労働者は法律上も事実上も有産階級あるいはブルジョア階級の奴隷です。労働者に対する需要が増大すると労働者の価格も上昇し、需要が減少すると価格も下落します。奴隷身分との違いは、労働者が自由であるかのように見えることです。労働者は、自分自身で日毎、週毎、年毎に切り売りをしなければならぬのです。従って、奴隷の消耗は主人の損失となりますが、労働者の消耗は労働者自身の損失となるのです。

②次に、過剰人口ですが、労働者が過少だと賃金が上昇し、労働者の暮らし向きは良くなり、結婚は増え、より

多くの子どもが育ち、ついには十分な労働者が生産されます。逆に、労働者が過剰だと賃金は下落し、失業・困窮・飢えが生じ、発生した伝染病により「過剰人口」を死に追いやるのです。また、過剰人口は、工場主が行う労働強化により、労働者相互間の競争によって生み出されます。具体的には、労働者間の競争によって高められる労働者個人の能率、分業、機械の導入、自然力の利用が、多数の労働者を失業させます。そして、失業者の消費が減り、生産の必要性がなくなり、さらに失業者が増えることとなります。

③続いて、商業恐慌です。無秩序な生活手段の生産と分配のもとでは、市場は商品で溢れ、販売は滞り、資本は動かず、価格は下落し、もはや労働者に与える仕事がない状況に陥ります。

「失業者を容易に習得できる部門に投じ、また、ある市場の販売できない商品を他の市場に投じ、個々の小恐慌を

競争の集中作用によって結合され、周期的に繰り返される恐慌となった」と説明しています。その恐慌が5年おきに起こるのが通例であるともいっています。

④恐慌から好景気になると、商品取引が活気づき、一層の値上がりを期待して投機買いが始まります。商品を消費から奪い、工業生産力を最高度に発揮するよう促すのです。

⑤恐慌・繁栄の循環に対応するため、ブルジョアは活気のある数カ月間に大量の商品を生産できるよう失業予備軍を確保します。その予備軍となるのは、地方の農民やアイルランド人や一部の労働者です。これに対し、過剰者(過剰人口)の中には、社会に対し公然と反抗する者も現れますが多くの過剰者は救貧税や富者の慈悲では救われず、労働者たちが出来る限り互いに助け合わなければ、恐慌の度に大量の「過剰者」が餓死によって死に追いやられる

ことになります。

恐慌は資本家にとって「必要悪」

司会…恐慌がなぜ起こるのか、その流れについて説明がありました。質問・補足すべき事項があればお願いします。
小林…恐慌は5年おきに起こるとありますが、この頃のブルジョアは規模も小さく力もなかったからですが、大資本になり10年周期になったのは何時頃からでその要因は何ですか。
小谷田…10年周期になったのは司会者が述べた通り1857年からです。その要因は独占資本が現れ、生産調整を行うようになったからです。

影山…坂牛前労大議長は、「10年毎に発生する恐慌は、資本主義にとっては「必要悪」であったと書いていますがどういうことですか。

向山…資本主義は、恐慌の度に過剰資本を切り捨て、生産手段を更新し、生産力を上昇させて、拡大再生産の道を

切り開いていくということです。

アイルランド人の暮らしぶり

司会…競争についての議論がまたまた尽きませんが、次の章の「アイルランド人の移住」に入っていきます。先ず、1800年代前後のアイルランド人の暮らしぶりについて報告して下さい。

向山…アイルランドはイギリスの一部でしたが、アイルランド人はひどい貧困にあえいでいました。イングリッドに暮らすイギリス人貴族の多くは、アイルランドの広大な土地を所有し、アイルランド人を小作人として働かせていたのです。古くはイギリス人の支配下に置かれ、豊かな農地が奪われ、農業ができないような耕作不適地に追われました。しかも彼らは小作人として農地の3分の2に小麦を栽培し、それをイギリス地主に納付し、残りの3分の1にジャガイモを栽培して自らの食料としていました。

また、1845年からのジャガイモの凶作により、150万人が餓死し、100万人が移住しました。食料はあつたものの分配されなかったことが飢饉の本質です。独立戦争を経て完全独立したのは1949年のことです。

影山…まるで時代劇の悪代官と農民の関係に似ていますね。

アイルランド人の移住

司会…次に、イングリッド労働者に与えた影響についてみていきます。

向山…アイルランドの多くの貧しい人々を自由に使える予備軍として持っていないければイングリッドの工業の急速な伸長は起り得なかったようです。100万人以上が移住し、イングリッド社会の最下層階級を形成しました。アイルランド人は文明を求めることなく成人し、あらゆる貧乏に慣れ、粗野で酒好きで無頓着でした。この移住により、イングリッド労働者の下層大衆

◆みんなの学習講座



ジャガイモ飢饉の時代に食べ物を求める
アイルランドの人々を描いたイラスト

は、競争相手となつて賃金の下落を余儀なくされました。

アイルランド人は最低限度の生活習慣を見つけ出し、イングランドの労働者に影響を与えました。最悪の住居でも住居であれば満足、服は気にしない、靴は履いたことがない、食物はジャガイモ、豚と寝食を共にし、寝床は藁とボロ服があれば十分、家族は一部屋以上を必要としないという生活ぶりでした。

た。イングランドの労働者は、安い賃金しか必要としない競争相手と闘わなければならなかったのです。競争相手となったイングランドの労働者の賃金は益々押し下げられました。

しかし、長い見習い期間や規則的な作業を必要とする労働に対しては、アイルランド人の水準があまりにも低く、工場労働者になるためには、イングランドの文明や習慣を身につけなければなりませんでした。

アイルランド人の移住は、賃金の低下、更には労働者階級そのものの低下の大きな要因となりました。というのも、殆どの大都市でも、労働者の約4分の1がアイルランド人だとすれば、全労働者階級の生活、その習慣、その知的・道徳的地位、その性格全体が、アイルランド的価値観を大幅に取り入れることになったのです。

司会：移民受け入れによって起こる影響について説明がありました。質問等

がありましたら、お願いします。

小谷田：現在、欧州各国は多くの難民を受け入れていますが、雇用不安や賃金低下の問題はないのですか。

小泉：ないようです。労働市場の棲み分けがされ、高学歴者等はIT企業や労働需要が増えている成長産業に、他方はいわゆる3Kと言われる業種です。いずれも労働力不足のため、国内の労働者と競争になることはないようです。

日本国内においても、多くの外国人労働者や技能実習生が働いていますが、労働力が不足する3Kと言われる業種が多いですからね。

司会：アイルランド人はなぜ移住したのか、移住によってイングランド労働者にどのような影響を与えたのか、そして現在の難民などによる影響についても理解できたと思います。

次回は「諸結果」です。悪化する労働環境や生活実態など、労働者階級の状態について学びます。